

お薬手帳を用いた情報共有でコンプライアンス維持

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は患者へ情報提供を行うことと、お薬手帳を用いて情報共有を行う事でコンプライアンス維持へ貢献できた事例を紹介します。

患者背景

- ▶腎盂がんに対して腎盂尿管ファイバー目的で入院
- ▶便秘があり酸化マグネシウム細粒を服用中

Aさん

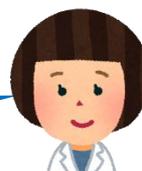


薬剤師が持参薬確認に訪室

患者 Aさん



Aさん、お薬の確認をさせてください。
お薬はこれで全部ですか？
飲みにくいお薬はないですか？



これが全部よ。飲みにくい薬かあー……。
便秘の薬（酸化マグネシウム）が粉やろ？粉薬が苦手で
飲みにくいんよ。

酸化マグネシウムですね。粉薬が飲みにくければ錠剤もありますよ。
錠剤に変更してもらえるように先生に相談してみますね！



錠剤の方がいいけど、まだ家にも薬が残っとるんよ。
もったいないけん、これを飲もうわい。

そうですか。では、お薬手帳に次回から錠剤へ変更を希望している旨を記載しておきますね。
次に受診する際に先生や薬局の薬剤師におくすり手帳を見せてお伝えください。



便秘の薬は錠剤にかえてもらったよ。
やっぱり錠剤の方が飲みやすいね。

1ヵ月後、手術目的で再入院された際に訪室

患者の服用状況を確認して必要な情報をおくすり手帳などのツールを用いて共有し、患者にあった剤形へ変更できQOLの改善へ貢献できた。